

生殖学

科目責任者：藤ノ木 政 勝（実験動物センター）

I. 前 文

性分化，配偶子形成，性ホルモンの分泌と機能，配偶子の機能，受精，妊娠といった生殖機能について概要を解説します。

II. 受入可能人数

20名程度

III. 担当教員

藤ノ木 政 勝（実験動物センター）

IV. 学習内容

座学の講義形式で授業を進めていきます。

生殖機能について基本的な事柄を中心に講義をします。生殖医療に興味のある学生の方は受講される事を薦めます。

授業テーマ

1. 生殖に関する科学史
2. 性ホルモンの産生と一般的性質
3. 女性ホルモンの機能と生理反応
4. 男性ホルモンの機能と生理反応
5. 遺伝子による性分化
6. ホルモンによる性分化
7. 配偶子形成
8. 精液と精子の生理
9. 卵胞の生理
10. 受精
11. 着床と妊娠
12. 生殖補助医療

V. 学修の到達目標

性ホルモンや配偶子の生理機能などの生殖機能について，その基礎を説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

学習内容で関心を持った事柄について自主学習し，その内容をレポートにまとめて提出する。

VII. 使用する教材・資料など

パワーポイントを使って講義をします。スライドはプリントとして配布します。特定の教科書などは使用しません。参考になる書籍として動物生殖生理学（講談社），脳とホルモンの行動学（西村書店），生殖とホルモン（学会出版センター），繁殖生物学（インターズー），実践卵管学（中外医学社），よい精子の条件（プレアデス出版），精子学（東京大学出版会），新編精子学（東京大学出版会）などがあります。

VIII. 質問への対応方法

まずはメールで連絡をしてください。メールアドレスは，fujinoki@dokkyomed.ac.jpです。

IX. 求められる事前学習、事後学習* () 内は所要時間の目安

事前でも事後でも良いですが、上記に挙げた参考図書を1冊通読する事を求めます。(通読に要する時間は2週間程度)

X. コアカリ記号・番号

コアカリキュラム

28ページC-2-4) 個体の発生

学修目標：

- ①配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像を説明できる。
- ⑥泌尿生殖器系各器官の形成過程を概説できる。

51ページD-9-1) 構造と機能

学修目標：

- ①生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
- ②男性生殖器の発育の過程を説明できる。
- ③男性生殖器の形態と機能を説明できる。
- ④精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
- ⑤陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。
- ⑥女性生殖器の発育の過程を説明できる。
- ⑦女性生殖器の形態と機能を説明できる。
- ⑧性周期発現と排卵の機序を説明できる。
- ⑨閉経の過程と疾病リスクの変化を説明できる。

55ページD-12-1) 構造と機能

学修目標：

- ①ホルモンを構造から分類し作用機序と分泌調節機能を説明できる。
- ⑦男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。

XI. 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法

レポートは評価した後コメントを付けて返却します。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	

六
学
年

能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	